

国立民族学博物館の収蔵品(17)

ジョージ・ブラウン・コレクション



ブラウンの自宅の一室に収蔵・展示された民族誌コレクション
(写真提供: ナンシー・ジョイス)



オセアニア展示場内のブラウン・コレクションの一部
(写真提供: 国立民族学博物館)

国立民族学博物館（民博）は、一九八〇年代半ばにある大型コレクションを購入した。それは、キリスト教会メソジスト派の宣教師であったジョージ・ブラウンが、十九世紀後半から二十世紀初頭の南太平洋の島々で、伝道活動の傍らで収集した資料である。当時の人びとの暮らしを伝えるとともに、同時代の宣教師と現地住民との関係の在り方を洞察するための貴重な歴史資料である。

一九一七年四月七日、ブラウンはシドニー郊外にある自宅で八十二歳の生涯を閉じた。週明けの九日(月)に、シドニー・モーニング・ヘラルド紙は彼の訃報を伝えた。その記事の中で、自宅の一室には三〇〇〇点を超す民族誌資料が残されており、そこはあたかも博物館のようであったと紹介した。ブラウンが南太平洋の島々で集めた資料は、民族誌だけでなく自然誌標本も含めると膨大な数にのぼると思われるが、母国英國やオーストラリア、ニュージーランドなどの大学や博物館に寄贈したもの、親戚や友人に送ったものなどを除いて、ジョージ・ブラウン・コレクションと呼ばれるのは、彼が自宅に保管していた、この民族誌標本資料を指して

いる。

遺品であるコレクションは、遺族の意向によって、分散させることなく一括して管理できる機関への売却が検討された。しかし、オーストラリア国内ではそうした博物館や大学が見つからず、ブラウンの生まれ故郷である英國のバーナード・キャッスルにある、ボウズ博物館に買い取られることがとなつた。その後、コレクションはニューキャッスル大学ハンコック博物館に移ったが、一九八〇年代半ばにサッチャー政権下での大学の財政難によって売却されることとなり、それを民博が購入したわけである。

しかし、それまでコレクションを所蔵した博物館は、収蔵資料の充実化を図るために、コレクションの一部を他の博物館の資料と交換するために手放していた。また、民博が購入する際にも、評価額の高い資料に関しては輸出規制がかけられ、九件の資料が英国内の博物館や大学に買取られていた。遺族の当初の希望に反して、コレクションは複数の研究・教育機関に分散することになったのである。

民博は、購入したコレクションについて研究を重ね、一九九九年に企

画展「南太平洋の文化遺産—ジョージ・ブラウン・コレクション—」を開催した。会場となつた特別展示館では、約三〇〇〇点の資料を展示するため、収蔵庫で用いる収蔵棚も使用した。それは、多くの点数を展示する方法であると同時に、展示のために、収蔵品から資料を選定するのではなく、収蔵そのものを観覧に供するという、まさにブラウン自身がシドニーの自宅で行ったことを踏襲するものでもあった。現在、コレクションの一部はオセアニア展示場に展示されており、さらには、分散したコレクションをウェブ上で再統合しようとのプロジェクトも始まっている。

(林勲男)